

## シリーズ1、病虫害等による庭木の被害とその対策 (3)

### —庭木の松類を守る：本県で発生した害虫—

富山県林業技術センター林業試験場  
中山間地域資源課長 西村 正史

マツ材線虫病とマツカレハを紹介してきましたが、今回は、本県でこれまでに発生したいくつかの害虫をまとめて紹介します。

#### マツバナタマバエ

1994年の6～7月頃に新湊市内の工場や公園に植栽されているクロマツ林が真っ赤になって枯れているとの情報があり、現地に行って調べたところ、マツバナタマバエの被害であることがわかりました。この被害は、周辺の民家の庭木のクロマツやアカマツにも発生し、当時大問題になりました。市では薬剤処理を実施したので、被害は最小限に食い止められたという経緯があります。

5月下旬から7月下旬にかけて羽化した成虫は針葉の根元に卵を産みます。卵から帰った幼虫は根元付近の針葉に潜り込み、そこで大きくなるので、針葉の基部は膨らみ、針葉も伸びなくなります。最後には枯れますので、遠くからみれば真っ赤になって木全体が枯れたように見え、景観が著しく悪化するとともに松の樹勢も衰えます。幼虫は、針葉の基部で10月頃まで発育を続け、成熟すると地表面に落下して越冬し、翌年に成虫となって羽化します。

この害虫の防除法としては、薬剤を使用する方法もありますが、お勧めの方法があります。それ

はこの害虫の特徴を利用した方法です。秋になると幼虫は落下して落葉層や土壌中で越冬しますので、それらを集めて焼却する方法です。また、越冬している場所が乾燥状態であれば、死亡率が高まることが知られていますので、日頃から松の直下をできるだけ乾燥した状態に保つことが大切です。これを実行していれば、被害を食い止めることができます。

#### アブラムシ類

梅雨頃に庭木や盆栽の松の幹が真っ白になったが、どうしたらよいのかという問い合わせがよくあります。これはトウアマツカサアブラムシによる被害で、この害虫の体表が白色粉で覆われているためです。防除法としては、白いものが目立つようになると、たわしや歯ブラシなどで、早めにかき取るようにしてください。

#### シンクイムシ類

松の枝の先端が萎れて枯れたようになったが、どうしたらよいのかという問い合わせもよくあります。この被害の多くはシンクイムシ類による被害です。これは、被害部分を切除して、焼却処分してください。



マツバナタマバエの被害 (右) と防除 (左)